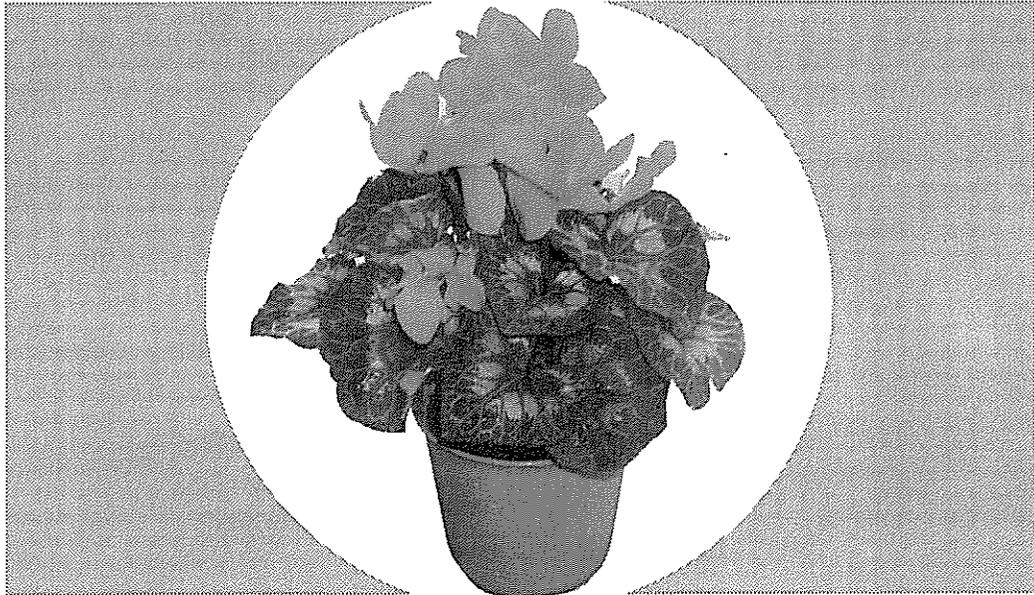


岩手郡医報

平成 6 年12月 No47
 編集 発行
 岩手郡医師会
 題字 雫石町高橋孝先生



シクラメン

花や植物の嫌いな方はいないでしょうし、身近に盆栽や鉢植えなどには大抵の方は興味をもっていることと思います。

冬から春にかけての鉢植え草花とし親しまれている「シクラメン」は、ふつう温室内で栽培され、サクラソウ科の多年草で、地中に塊茎を有する球根植物である。

花は15cm位の花茎上に単生し、花筒部が下を向き、5ケの裂片は上向きにそり返ってねじれる。その花の形が「かがり火」を思わせることから、カガリビバナの別名もある。

花色は、白、桃、紅、鮭赤色など変化にとみ、花形もふつうの一重咲きの他、花卉の縁がちじれて波状になっているパピリオ咲き、花卉が反転せず、縁に切れ込みがあり、花卉の幅の広いロココ咲きなどがある。八重咲きや芳香のある品種もある。冬は最低10℃位に保てばよく開花を続ける。

シクラメン 花のうれひを葉にわかち

久保田万太郎

(小学館 大日本百科事典及び講談社 四季ごよみ(春)より)

目次

「シクラメン」	1	「おらほの先生」	
学術講演会・祝賀会・忘年会	2～3	西根町 伊藤小児科医院の巻	9
全国僻地医療・社会貢献者表彰		随想 「半分、半分」 高橋 孝	10
佐藤郁郎	4～5	平成 6 年度岩手県県民健康講座	
死亡診断書等の改訂について	5	カリキュラム	11
平成 6 年度日医指定「認定産業医基礎		新入会員紹介	11
生涯(実地)研修会」	6	平成 7 年の休日における	
平成 6 年度岩手郡地区学校保健研修会		国保請求書締切日	12
上原充郎	7	編集後記	12
予防接種のガイドラインが変わった			
塚谷栄紀	8		

岩手郡医師会 学術講演会・祝賀会・忘年会

日時 平成6年12月3日(土)
午後3時より

場所 つなぎ温泉 ホテル大観
進行 及川 忠人

- | | | | | | |
|---------------|----------------|--------|-------|-----------------|---------|
| 1 開会 | 岩手郡医師会副会長 | 高橋 孝 | 6 閉会 | 岩手郡医師会副会長 | 上田靖彦 |
| 2 挨拶 | 岩手郡医師会会長 | 高橋牧之介 | 7 祝賀会 | (佐藤都郎先生受賞・定款制定) | |
| 3 定款制定について | | 高橋牧之介 | ・忘年会 | | 司会 高橋 孝 |
| 4 最近の医療情勢について | | 高橋牧之介 | | | |
| 5 学術講演「血液の臨床」 | | | | | |
| 座長 | 郡医師会副会長 | 西島康之 | | | |
| 講師 | 岩手医科大学第三内科血液部門 | | | | |
| | 教授 | 厨信一郎先生 | | | |

◇会長挨拶の要旨◇

開業医の高齢化が進むなかで、患者の大病院志向、診療報酬のわずかなアップと厳しい環境はなかなか好転しそうにない中で、今年も暮れようとしています。来年は期待できるのか思いやられる今日この頃です。

政局の混迷によって医療をとりまく状況も厳しさを増し、医療経営が厳しいのは当然のことで医療担当者だけが低医療費政策の中で喘いでます。

10月の診療報酬改定で、入院給食材料費を患者の自己負担にすることで財源を確保した改定であったが、これだけならよいが、将来は室料や寝具にもおよぶ危険があります。

医療費財源の確保も厚生省・大蔵省だけに委ねているのではなく、政治の場で医療がいかにあるべきかを議論してもらわなければならないし、医師政治連盟を通じた活動を活発にしてもらいたいものだ。

政局の混乱によって、大きなビジョンを提案できる国会議員も見当たらないので、日本医師会こそが、医療・保健・福祉に対する考え方をアピールしてくればよいと思います。

事業税非課税措置存続は自民党単独政権のころは、日医の思うままに認めてくれたが、今は医療の現状を厳しく訴えて共感をえて協力してもらわなければならないので、派

閥を越えて理解と協力を訴えていかなければなりません。地域医師会の協力が大切なことと考えます。事業税の非課税や4段階の特別措置は、当然残していただきたい。

尚、12月15日に連立与党による医療税制に関する大綱が発表され、社会保険診療報酬に対する事業税の非課税及び所得計算の特別措置（いわゆる4段階税制）を存続させることが決った。

混乱する政局が今後どのような形で収まっていくのか、現在のところ誰もわからないのが実情であります。地域医師会の協力がなければ、どうにもならないので地方に重点をおいた医政活動に転換する方針であることは事実です。当医師会としても慎重な対応を求められるわけです。以下

1. かかりつけ医機能推進について
2. 医療行政の地方分権化

地域の保健対策強化の整備・保健所機能の強化・地域保健センター

3. 圏域内の保健医療供給体制の整備・保健福祉の連携
4. 盛岡地域産業保健センターについて
5. 心肺蘇生普及について
6. 二次救急医療対策について
7. 生涯教育について
8. 県民健康講座

◇学術講演◇



学術講演「血液の臨床」於ホテル大観

本年最後の講演会ということで、好天に恵まれた12月初め、つなぎ温泉ホテル大観において行われた。

出席予定は41名とのこと、かなりの出席率となった。

及川忠人先生の進行で、高橋会長より、岩手郡医師会の社団法人の定款が制定されたことが報告された。

これは昭和22年11月、岩手郡医師会として初代会長故小野素行先生のもと岩手町沼宮内に設立されて以来、昭和23年に定款は県の認可を受けたが、その後届出をしない状態であった。

昭和57年、故上野精三会長るとき、定款制定委員会が出来、再び定款について協議を行うも、そのままとなっていた。

平成6年6月、現会長高橋先生が法務局、



◇祝賀会・忘年会◇

『血液の臨床』

講師 岩手医師大学第三内科血液部門
教授 厨信一郎先生
座長 岩手郡医師会副会長 西島康之

裁判所、県庁などに足を運びようやく日の目を見るに至ったものである。

本日の学術講演は、岩手医大第三内科血液部門教授の厨信一郎先生による「血液の臨床」と題して行われた。

座長は、先生と同門の郡医師会副会長西島康之先生が務められた。

開業医にも解り易い日常診察における血液検査データの読み方、これによってどんな患者が考えられるか、貧血の分類、白血病の分類、診断、治療にまで及び、最新の治療により症例によっては生存が長期に亘っているものもあることなど詳細に話され、これからも白血病の治療には力を入れていきたい旨話された。

日常診療で遭遇する血液患者のアウトラインについての貴重な内容のお話であった。

いづれ講演要旨については、次号に掲載したいと思います。

講演終了後、ホテル大観地下の秀峰の間に会場を移し、佐藤郁郎先生の受賞を祝して、また岩手郡医師会の定款制定を記念して祝賀会及び忘年会となった。

夜には一面白雪の世界となり、日帰りの方々はノロノロ道路で苦労されたことであろう。

全国僻地医療貢献者
社会貢献者

全国自治体病院開設者協議会) 表彰 財団法人 日本顕彰会)

国保葛巻病院院長 佐藤郁郎先生



郡医師会(高橋会長)より佐藤先生へ
記念品の授与

平成6年度全国僻地医療貢献者として、全国自治体病院開設者協議会会長表彰を受けられた国保葛巻病院の佐藤郁郎院長(65才)は、去る7月13日県知事公館にて、全国自治体病院開設者協議会長の工藤巖岩手県知事より表彰状と記念品が手渡され、20年間の功績をたたえられた。

先生は昭和49年同病院に赴任以来、内科医師として医療に携わる一方、町の母子健康センター、保健センターの所長を兼務し、成人病予防や住民の健康管理活動にも尽力し、また特養老人ホームの嘱託医を務めるなど、高齢者福祉に力を入れると共に、葛巻町周辺が慢性的な医師不足にある中、人材、施設を拡充し、同病院の救急病院指定を実現した。

本年度の僻地医療貢献者表彰は全国で3人、本県関係の受賞は佐藤先生で16人目となる。

また、これとは別に財団法人日本顕彰会(会長 笹川良一氏)より「社会貢献者」として、平成6年11月7日東京にて表彰された。多年にわたり医療一筋に従事し、農山村僻地の医療確保に日夜献身し、地域住民の福祉の向上に貢献した功績によるものである。

全国僻地医療貢献者) 表彰を受賞して 社会貢献者)

国保葛巻病院院長 佐藤 郁 郎



佐藤郁郎先生

先般、知事公館にて工藤知事から表彰状を頂いて参りました。表彰の報せをうけたときは本当に驚き、戸惑いを覚えました。昭和49年、故光井庄太郎教授(元岩手医大教授)の御推挙により葛巻の地に赴任してから今日まで、夢中で勤務していただけたことなのにの想いで一杯でした。しかし考えてみますと、これも一緒に今迄働いて来てくれた誠実な職

員達のおかげ、又多くの先輩や、日夜共に診察、検診等に頑張ってくれた医師達、まして日本一と云われた乳児死亡率等にみられた医療、保健の立遅れに懸命の努力をされ、病院創設、新築、そして維持に心を込められた歴代町長をはじめ、多くの先人達のおかげではないのか、その代表としての表彰ではないのかとの想いも出て、文字通り素直な気持ちで表彰をうけて参りました。

振り返りますと、院長と申すものの常勤医は私一人で、岩手医大各教室の御援助により年間60~80人の若き青年医師の派遣をうけて

平成6年度

日医指定「認定産業医基礎・生涯(実地)研修会」

上記研修会は、平成6年11月5日(土)午後2時より、玉山村にある「アルプス電気(株)システム機器事業部」の工場見学会として行われた。

岩手郡医師会産業医担当の八角正司先生の紹介でこの事業所が選ばれたが、今回参加希望された会員は八角医院前に集合したあと、アルプス電気のバスにて現地へと案内していただいた。当日は秋晴れの好天に恵まれ、郡内より会員約23名が参加され、中には産業医の登録をされていない会員も数名含まれていた。また、県医師会からも高橋健常任理事(産業医担当)も参加され、今年から各都市単位で約50人前後の研修会を行うことになった旨挨拶があった。

事業所内のセミナールームにて担当職員(3名)より会社案内を聞いたあと、所内を2班に別れて、巡回視察を行った。

アルプス電気は国内に3事業本部、即ち情報通信、電子部品、車載電装とあり、それぞれ国内ネットワークによりエレクトロニクス市場に向けて常にトップレベルの電気、電子部品の生産を行っている(社員数

8500人、1993年度売上高2640億円)会社であり、古川、長岡、小名浜、盛岡他の工場が、主に東日本を拠点としてあり、またアメリカ、ヨーロッパ、アジアなどにも生産、販売の独立採算で行っている関連企業も各地にある。

今回見学の盛岡工場システム機器事業部(社員数約650名、男450名、女200名、1993年度売上高340億円)の広々とした所内は、工場というよりは電算機器が机上にあり、それぞれが真剣な眼差しで画面をのぞき込んでいる様子は、事務所の雰囲気さえ感じられた。

カセットケースなどの生産については、人の手作業が一番最後のラベル貼りだけで、途中の工程はオートメーションによる作業であった。

一通り回ったあと再びセミナー室にて、職員の健康診断についての討議があり、肝機能異常、肥満について問題提起があり、有意義なひとときであった。

恵まれた自然環境と広大な敷地(約6万坪)内に散歩道を作ってもらい、昼休みを利用して肥満解消に役立てたいと係の方は話していた。



アルプス電気盛岡工場にて説明をうける



平成6年度

岩手郡地区学校保健研修会

郡医師会理事 上原 充 郎



盛岡少年鑑別所所長 山下武子先生

平成6年10月22日(土)、14時より新築されたばかりの岩手県自治会館において同研修会が開催された。今回は、講演を主としたもので、講師として、盛岡少年鑑別所所長、山下武子先生をお招きして「省そして翔」副題「少年たちの愛と夢」と題して1時間30分の質疑が行われた。その内容を記して報告と致します。

少年鑑別所は少年刑務所や少年院と混同されがちであるが、その主たる役割は非行を犯した20才未満の少年少女を、家庭裁判所の決定により最高四週間預かり、彼らがなぜ非行を犯したのか、そして今後どのようにすれば同じ失敗をしないで済むのかということをつまららかにすることである。これを収容鑑別という。これに対し、外来相談があり、非行問題、不登校、いじめ、しつけ、家族問題等の無料で相談に応じており、秘密は絶対守りますので利用してください。(TEL0196-47-2206)

まず長年の経験から非行のかけには家庭に問題ありといえる。ここに入所する非行少年少女の50～60%は実の両親がいるが、その大部分の家庭には何らかの問題を含んでおり、その悪影響が子供を非行に走らせている。

家庭の機能(役割)は二つある。一つは社会的側面(人間の人格形成の外側部、つまり、しつけ、善悪等)と他の一つは情緒的側面(人間の人格形成の中核部)である。情緒的側面は人間関係により大きく左右される。この人間関係には横の関係(父母間の仲のよさ)と縦の関係(子供と父母の関係、つまり子供が父母からたっぷり愛情をうけて育つ環境)がある。もう少し説明を加えると横の関係は父母の仲が悪いと時として子供を疎ましく思

うことがある。親に疎ましく思われた子供は親を信頼出来なくなり、人間を信頼出来なくなり、更に親に対する不信感、人間に対する不信感を抱く結果になる。

縦の関係は親は子供をささえる、受け入れる、肯定する、すなわち僕にはいつもお父さん、お母さんがついていてくれるという気持ちが大切である。子供は親から認めてもらいたいという気持ちが強く、認めてもらうことが生きていく力となる。子供の存在を意識しながら自分の生き方をする親であってほしい。注意する時でも人格を否定するような、例えば“おまえを生みたくなかった”というようなことを言うてはならない。

家庭の子供に与える影響は大きく家庭不和の時期が子供の年齢が小さい程ダメージは大きく、又、男児より女児の方が影響を受けやすい。それは女児の方が家庭状況をより良く観察出来るからだと考えられる。

具体的に父と母の問題になる点をあげてみると、

父の問題点として

- ①暴力……めしがおそい、まずい、テレビの音が大きいうようなささいなことに対する暴力
- ②酒ぐせが悪い……ぐちをだらだらとこぼす
- ③経済力の無い父
- ④かけごとにうつつをぬかす父
- ⑤女狂い、犯罪、やくざ

母の問題点として

- ①母親としてよりも女としての意識の強い母
- ②感情の起伏の激しい母
- ③育児を含めて家事をしっかりとやらない母等

いずれ子供には平和な家庭が大切であり、溺愛(何のコントロールもない猫かわいがり)でなく、しっかりした親の愛情をたっぷりかけて育てることが大切である。とユーモアをまじえ楽しくわかりやすく講演して下さいました。

以上山下武子先生の講演内容をまとめてみました。

尚、先生は「省そして翔」という少年少女達の入所時の作文をまとめた冊子を編集し出版されております。少年少女の追いつめられた気持、反省の気持、孤独な気持、純真な気持、多感な感受性等々が記録されております。大変参考になります。

時の話題から

予防接種のガイドラインが変わった

岩手町 塚谷 栄 紀

今年の10月から予防接種の間診、予診を厳密にするように厚生省からの知らせがありました。改正では1人の医師が1時間に診察する人数は20人程度とすると書いてあります。

今までの大ざっぱな集団接種ではどんな副作用が起きていたのでしょうか、大まかに調べて見ました。DPT（ジフテリア、百日咳、破傷風ワクチン）では、局所反応が50%にみられますが、5cmを越える反応は5～10%です。腕全体に広がる皮膚の腫脹は1万例に1例程度見られます。ポリオでは100万人に1人以下で弛緩性麻痺を生じます。麻痺は数%に高熱、20%に37℃台の発熱がみられますが、1～2日で解熱します。脳炎の発生が100万人に0.5～1.0人の発症が知られています。風疹は軽い風邪症状が数日続くことが4%以下に認められます。

全部ひっくり返してみても重篤な副作用は1万～100万人に1人です。この気の遠くなるような発症率を間診と簡単な診察により検討をつけるのでしょうか。

新しいガイドラインの「予診表の各項目の目的」というところにはこんな説明があります。

<説明書の事前確認>内容の理解できているかを確認し、接種希望者が理解していない場合には接種施設内で読ませると書かれています。

接種後に熱が出るとか接種部位の皮膚症状ならば幾らかはわかっただろうと思いますが、1万人に1人の確立で発症する副作用の説明を、母親がされても実感としてわかるはずがありません。時間で言えば1カ月という感覚はありますが、1万年の感覚は持ってません。

そのほかく家族や遊び仲間の病気>

<生まれてから今までかかった病気>

<ひきつけ>この項目には、原因診断を主治医と相談するとあります。

<家族に予防接種を受けて具合のわるくなった人がいるか>

ざっと並べてみても、これらの内容を数分で聞くことは不可能です。よしんば1人の接

種希望者を1時間診察したところで上記の副作用の予想はできません。

どうしてこのガイドラインが出てきたのか。予防接種過誤を訴える団体への政府、厚生省の阿りなのではないでしょうか。その阿りのため、次のような風潮が国民に定着しつつあります。「予防接種後、何らかの健康被害が起こり、医学的に説明ができなくても、国が保障をする。」さらに「医学に基づき行動する医師は、医学的に表されていない可能性も透視して、予防接種を行わなければならない。」

これでは現場の医師にしわよせがきます。太平洋戦争当時の聞いた話を思い出します。日本軍の戦況が悪化してきて、食料難と武器の不足から戦果を上げられないときでも、書類上は「敵に多大な損害を与え、わが隊の損害は軽く、兵士も生き盛んであります。」

この種の情報が集まれば、日本は敗戦が濃厚になってくるまでは勝利の連続だったと思います。予防接種と戦争報告では掛け離れています。現状はどうあれ書類上きちんとしていけばそれですんでしまうという考え方は同じです。厚生省には、改めて予防接種方法が順調に行われる書類が送られていくと思います。

今まで人類に多大に貢献してきた予防接種に協力することは意義深いことですし、苦勞を惜しむものではありません。しかし、人間が働くときに一番辛いと感じるときは、その仕事が無意味だと思ふときです。

政府や厚生省は「予防接種にも副作用は起こります。それは仕方のないことです。1万人の1人、百万に1人に当たったときは、大変不運なことですが仕方のないことです。」と言えないでしょうか。<薬に懲りて膾を吹く>ではないでしょうか。

予防接種においても人間のできることはその程度だと思ふます。損害保証のあるなしは別として、「人間は失敗する」という豊かな常識が日本から急に薄れつつあるのではないのでしょうか。(平成6年11月26日)

おらほの先生

西根町 伊藤小児科医院の巻

院長は、昭和26年6月23日生まれの43才です。平成元年6月に西根町に開業致しました。

西根町に開業して6年、初めての頃は西根町の方言が解らないなどということもあった様ですが、今ではそんな事もなくスムーズに診療しています。院長はとてもハンサムでスタイルも良いので、患者さんの中には沢山のファンがいます。この間は「先生、大好き!!」と言って山野のお花を摘んできてくれた女の子がいたほどです。院長は照れ屋なので恥ずかしそうにお礼を言って受け取っていました。

院長の趣味は、観葉植物・車・野球・ギターなどとても多彩ですが、最近では熱帯魚に夢中です。ネオンテトラから始まり今では、クマノミヤイソギンチャクもいてまるで水族

館の様です。患者さんの中には待ち時間にとっても喜んで見ていて中には「モグランピアにも負けないね。」なんていう声も聞こえてくる程です。

診察中の院長は、とても優しく子供に接し、家族の方には、病気の説明など自ら書いたパンフレットを渡したり、その時、流行している病気の事が載っている新聞を見つけると、切り取って、掲示板に貼ったりして、とても熱心です。

院長はとてもきれい好きなので、医院の中はいつもきれいで院内感染を防ぐための、空気清浄器が、至る所に置いてあります。

毎日忙しい院長ですが、健康に気をつけられて、地域の医療の為、医院の為にこれからも頑張っていたきたいと想っています。



診察中の伊藤先生



伊藤先生と職員と

随想

半分、半分

雫石町 高橋 孝

「この腰のイデの今日一日で治せてガ！それだば神様が巫女さ行ってくればいいんだ。」
 「それほど医者の数回って歩ったって、治るわけネ、神様だば、数拜むど一つぐらい御利益があるかもしれネドモ、ナ！医者まわり止めでヨ、その先生さへッテナ紹介状をもらうなりして、他所の病院に行くようにしネば、同じ薬をアチコチから貰って服用とオッカネゴドするぞ！」この言葉は冗談のように時々患者に話すことだが、不況だと、神様、仏様へ願いをかける事が多いのか、県内、県外から遷宮だ、灯笼、瓦と色々の御寄進の依頼がくる。この様に信仰に裏打ちされた事柄は、なにかしらの圧力がかかる。数年前に、顔見知りの、骨董屋がきて、得意の5000年も前から生きている様な顔をして、「先生この仏像ですが、〇〇焼きで、何百年も続いた商家が倒産して、何とか処分してくれと、頼まれた物で、本当に掘り出し物だヨ。この顔の穏やかさ、口元の何とも言えない微笑み、これはこの仏像をいれておいた、黒漆のお堂だが、この様に少し剝げて壊れているが、作りが手がこんでいて立派なもので、是非先生に持ってもらいだくてス。」私は骨董品はただ高価で、解らない物、と決めていましたが、この仏像は、確かに姿も顔もよく、年代を感じる陶磁器で出来ていました。父や義父の遺影をただサイドボードの上に安置してあるので、この仏像を求め、その前に遺影をかざろうと考えた。「ところで、この仏さんの魂はどうなってんの？困った事、残念、無念だった事が皆つまってるんでネーノ？」「いやいや、

唯美術品としてだけ考えていればどうってことないよ」とのことだったが、お寺の和尚さんに聞いてみた。御神輿に魂を入れるのが政教分離がどうのと問題になったことを思いだし、「和尚さん、コレコレで仏像を買い求めるところだが、前の魂を抜いて、新しく魂を入れてもらえる？」と聞いてみたら、「いや先生それは出来ない、買わない方がいい、供養をしても魂を抜くことも出来ないし、もし何かあった時に、ああ、あれを買わなければよかったと思えばつまらないから」とのことので、神様と違って、魂を入れたり、抜いたり？出来ないようである。それからしばらくして、東京のデパートで仏師による仏像の彫刻の実演を見る機会があった。電柱のような丸太を使い、まえ半分の阿弥陀如来像が出来ていた。前述のこともありこの仏像ならと思い、譲ってくれるように話しをしたが、明日の夕方完成したらお譲りします。未完成では売ることには出来ないとのこと、話ののってくれませんでした。よし、それでは明日もう一度来ることとし、次の費10時の開店と同時に再度譲ってくれるように頼み、相手も根負けしてか、未完成の阿弥陀如来像を買い求めることが出来ました。値段も御利益も半分かはさだかではないが、黙って、静かに遺影は鎮座しているし、毎朝私のガラガラ声の般若心経をがまんしてきいてくれている。

平成6年度岩手県県民健康講座カリキュラム

(岩手郡雫石町会場)

場所 雫石町中央公民館

回	開催年月日	講座内容	時刻	担当講師	所属
1	平成7年1月25日	開講式	13:00~13:30	開会の辞 挨拶	盛岡保健所 盛岡保健所所長 岩手郡医師会会長 雫石町長
		1. エイズについて	13:30~14:20	玉田 清治	盛岡保健所所長
		2. 子宮癌について	14:25~15:15	坂井 博毅	坂井医院院長
		3. 歯の健康について	15:30~16:20	篠村 和雄	篠村歯科医院院長
2	平成7年2月1日	4. 成人病の食事について	13:30~14:20	小堀 亮子	盛岡保健所栄養士
		5. 老人介護について	14:25~15:15	朝賀 裕子	雫石保健センター 保健婦
		6. そばにいるから助けていから 心肺蘇生法	15:30~16:20	篠村 達雅	篠村外科医院院長
3	平成7年2月8日	7. 育児イロハうた	13:30~14:20	上原 充郎	上原医院院長
		8. かかりつけ医について	14:25~15:15	高橋牧之介	岩手郡医師会会長
		9. 癌について	15:30~16:20	桂 泰鴻	雫石病院副院長
		閉講式		終了証書授与 挨拶	岩手郡医師会会長 盛岡保健所所長 雫石町町長
				閉会の辞	盛岡保健所

○受講人員150名の予定です。

<新入会員紹介>

○飯島仁先生 (飯島医院)



飯島仁先生

年齢: 51才
出身地: 紫波町日詰で出生し、高校(盛岡一高)より盛岡に住む
出身校: 岩手医科大学医学部18期

診察科目: 外科、内科

開業の時期: 平成6年10月3日(滝沢村へ)

趣味: スポーツ(特にラグビー)、盆栽、山野草

<ひとこと>

検診活動、予防医学、スポーツ医学を通して地域の皆様の健康、体力増進、スポーツ振興に貢献したいと思います。

○秋山法宏先生 (雫石町立病院)

年齢: 34才
出身地: 水沢市
出身校: 岩手医科大学(第三内科)
診療科目: 内科
勤務地: 雫石町立雫石病院
趣味: 釣り、スポーツ

<ひとこと>

前任地は県立大船渡病院呼吸器内科長

平成7年の休日等における 国保診療報酬請求書の提出締切日について

国保診療報酬請求書の提出締切日は、通常月は10日（午後5時まで）となっておりますが、この度、岩手県国民健康保険団体連合会より、平成7年における提出締切日が、日曜日・祝日及び土曜日（閉所日）にあたる特定月については、下記のとおりとする旨連絡がありましたのでお知らせ致します。

記

1. 提出締切日について

- (1) 通常月 10日午後5時まで
- (2) 特定月
- 平成7年 1月提出締切日 1月12日(木)
午後5時まで
 - ◯ 5月提出締切日 5月11日(木)
午後5時まで

- 平成7年 6月提出締切日 6月12日(月)
正午まで
- ◯ 9月提出締切日 9月11日(月)
正午まで
- ◯ 10月提出締切日 10月11日(木)
正午まで
- ◯ 12月提出締切日 12月11日(月)
正午まで

※なお、社保診療報酬請求書の提出協力日につきましては、わかり次第お知らせ致しますが、「平成7年1月提出分」は、平成7年1月7日(土)午後5時までとなっておりますので申し添えます。

編集後記

○今年も間もなく暮れようとしており、何かと慌ただしい今日この頃です。われわれのふるさとの山として知られる岩手山の初冠雪があったのが10月18日でしたが、山には白雪があっても、里には仲々降雪がなく、今冬も暖冬かと思っていたところ、12月に入って積雪があり、本格的な冬の訪れとなり、車はノロノロ運転で渋滞し、街行く人々は歩道を気にしながら滑らないように転ばないように歩いている姿が見られるようになった。

○10月22日(土)には、盛岡市山王町に新装なった自治会館において、講師の山下先生より少年鑑別所に入ってくる子供さん達の様子から、いかにもこれから社会に向って飛び立とうとしている子供達の将来を思っている思いやりのあるお話しのように。上原先生のレポートで、どうもありがとうございます。

○11月5日(土)には郡市医師会単位で行うことになった産業医実地研修会が、郡内の施設で玉山村にあるアルプス電気盛岡工場で行われた。立派な施設で世界へ発信する情報機器の数々であった。

○学術講演会・祝賀会・忘年会には多数の会員の出席があった。非常にわかり易い「血液の臨床」のお話しであった。また、20年以上にもなる葛巻町の佐藤郁郎先生の苦労話には頭の下がる思いがします。今後とも多くの後輩に叱咤激励して下さい。

○時をえた塚谷先生からのレポートは今後とも皆様にも期待したいものと考えます。

○「おらほの先生」では職員が日頃感じている姿そのままに本当に微笑ましいことかと思えます。

○高橋孝先生からは今回も文章を送っていただきました、ありがとうございます。

(M. S記)